〔課程博士用　様式２〕

論　文　内　容　の　要　旨

学位申請者氏名 GOMEZ DE LA FUENTE, RICARDO GABRIEL

本論文では、スペイン語とパラグアイのグアラニー語における数量や程度を表す副詞に焦点を当て、それを日本語と比較している。研究の目的は、これらの言語におけるグラデーションを可能にする構文カテゴリを調査し、量・程度副詞の使用法や構造を対照的に検討しながら、程度や量を表す構文構造をより効果的に教えるための最適な方法を模索することである。

対照的な分析を通じて、スペイン語、日本語、およびグアラニー語の数量化システムにおける共通点と相違点が浮かび上がり、それぞれの言語での副詞の対応関係について検討され、正確な対応が見られないことが指摘されている。この不一致は、外国語としてスペイン語を学ぶ祭、言語表現に混乱や誤りをもたらし、非文脈的で機械的な学習手法の影響を受け、不適切な言語習得を招く可能性があると考えられる。

対照研究及びエラー分析から、スペイン語の程度や量を表す表現における指導の不足が明らかになった。具体的には、日本人学習者が「とても」などの表現を解釈する際に、「非常に」だけでなく、「たくさん」とも翻訳されることがあり、そのような意味の違いは文脈や修飾される単語に依存することが明らかになっている。同様の傾向が「たくさん」の場合も見られ、日本人学習者による正確な使用にはスペイン語の動詞構造を理解することが重要であるとされている。これらの課題を克服するために、より効果的な指導法の模索が求められる。

調査結果からは、特に日本語を母国語とする学習者が、スペイン語やグアラニー語において、構造上の違いや文脈の重要性、そして母国語とは異なる思考の仕方を度々無視し、母国語の概念を転用する傾向が観察された。これは、従来の教育アプローチが暗記主義に重点を置いていることによって強調され、必要な文脈の理解が不足していることが加速している。この状況が、学生たちが言語の適切な移し変えを妨げている可能性があり、教材においても、スペイン語や日本語の教科書では、副詞や量の表現の複雑さがしばしば省略されているという点が観察された。これらの問題に対処するためには、よりコンテキストを重視した教育法の導入が重要である。

本論文では、これらの言語的な違いに対処するために、教材の再構築が必要であり、固定表現や実践的なプラグマティクスなどの言語外の要素を言語指導に取り入れることが勧められている。このアプローチは、学生が言語の多様な応用を理解するのに役立つと考えられる。また、パラグアイのグアラニー語話者を対象に行ったオンライン調査からは、グアラニー語での程度表現の用法に関するデータが得られた。この調査から、グアラニー語がスペイン語と同様に書き言葉として使用できる言語ではなく、主に話し言葉として使用されていることが明らかになった。特にコンテキストを重視し、言語の特徴や実用的な用法を多岐にわたり探求するバイリンガルな教育の重要性が強調されている。これにより、異なる状況での言語の適切な使用が学びやすくなると考えられる。

本研究では、日本におけるグアラニー語に関する先行研究の不足を指摘し、グアラニー語での程度表現に関する初期データを提示している。特に、グアラニー語の書き言葉としての使用の増加に焦点を当て、スペイン語とグアラニー語の貴重なデータを提供している。また、複雑な数量構造を理解するためには革新的な教育戦略が必要であり、日本人学習者に第二言語としてスペイン語を導入する際、スペイン語と日本語の対応関係を分析することを提案している。今後の課題として、動詞の数量化や数量に関連する可算名詞と不可算名詞の使用に関する研究の重要性を指摘している。